

研究課題名	乳癌患者における抗癌剤による慢性末梢神経障害と生活の質（QOL）の関連
所属（診療科等）	長崎みなとメディカルセンター 乳腺・内分泌外科
研究責任者（職名）	山之内 孝彰（主任診療部長）
研究期間	承認日 ～ 2026年 12月 31日
研究目的と意義	<p>乳がんでは根治を目指して手術前・後に化学療法（抗がん剤投与）を行うことがあります。その中でタキサン系抗がん剤（ドセタキセル、パクリタキセル、パクリタキセル（アルブミン懸濁型））では副作用としてピリピリ感、しびれなどの末梢神経障害が挙げられます。</p> <p>末梢神経障害は一度おこってしまうと、月単位、年単位にわたり慢性的に続くこともあります。</p> <p>この研究の目的は、長崎みなとメディカルセンターでタキサン系抗がん剤投与を受けた患者さんの、慢性末梢神経障害の頻度、および患者さんの生活の質（QOL）への影響を明らかにすることです。また、これら結果を患者さんと共有することで、治療法選択の一助となること期待しています。</p>
研究内容	●対象となる患者さん
	2015年1月～2026年12月に長崎みなとメディカルセンターでタキサン系抗がん剤投与を終了し、3ヵ月以上経過した乳がん患者さんを対象とします。
	●利用する情報
	背景因子； -年齢、身長、体重、喫煙の有無、併存疾患 乳癌に関わる因子； -乳がんのステージ、手術術式、手術年月日、タキサン系抗癌剤の種類・投与時期、現在の乳癌に対する治療 アンケート調査；末梢神経障害の有無・程度、生活の質（QOL）
	●研究方法
	上記の情報をカルテより収集し、下記について検討します。 ・慢性末梢神経障害と患者さんのQOLとの関係
問い合わせ先	所属：長崎みなとメディカルセンター 研究開発センター 住所：長崎市新地町6番39号 電話：095（822）3251（内線3553） 受付時間：月～金 9:00～17:00（祝・祭日を除く）